

みなとまち新潟の
海と川が紡ぐ
物語

港とともに発展した おもてなし文化を体感する

きゅうにいがたぜいかんちょうしゃ

旧新潟税関庁舎

明治2年に、関税業務を行う役所として造られた新潟運上所(後の新潟税関)。当時、横浜や江戸に建てられ始めた洋風建築を参考に新潟の大工が建築。以後昭和41年までの約100年間使用される。開港5港当時の税関として現存する唯一の建物。国指定重要文化財。

data

新潟県新潟市中央区柳島町2-10

入館料:無料

9:30~18:00(10月~3月は17:00まで)

月曜定休(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土日の場合は火曜)

Pあり

お問い合わせ先

新潟市歴史博物館 みなとびあ

tel.025-225-6111

外国と貿易を行う 日本海側初の港

新潟港は河口にある港のため、川が運んできた土砂が堆積し、港内の環境がしばしば変化する厄介な港だった。時代によつては水深が1メートルに満たない場所もあったという。そのため、船が安全に河口に入るために水先案内人による誘導が不可欠。この係を新潟では水戸教と呼んだ。

新潟港の繁栄が始まるのは江戸時代に入ってから。「西廻り航路が開発され、当時日本経済の中心地であった大坂などと結ばれたことは大きく影響しています」と坂井館長は話す。新潟からは内陸の村々で作られた大量の米が積み出され、大坂や瀬戸内の木綿や塩、山陰の鉄などの特産物が新潟港に集まった。さらに蝦夷地（北海道）とも行き来するような大型の北前船の航行が活発になると、より一層流通経済が発展していく。蝦夷地からは昆布やニシンなどの海産物、出羽や最上からは紅花などが新たに新潟港に集まり、内陸に運ばれ人々の暮らしを支えていく。こうして新潟港は経済の拠点として益々繁栄していく。それに伴い、新潟古町も旅の商人などをもてなす場所として大いに賑わうことになる。

新潟港にとって大きな転機になったのは、明治元年の開港だ。1858年

新潟港 発展の歴史を 体感する



にいがたしはくはくぶつかん みなとびあ

新潟市歴史博物館 みなとびあ

旧新潟税関庁舎の敷地内にある歴史博物館。明治44年建築の2代目新潟市庁舎の外観をもとにデザイン。博物館の「郷土の水と人のあゆみ」をテーマにした展示と、明治・昭和初期の歴史的建造物とともに、情緒豊かな港町・水の都にいがたの歴史と文化が満喫できる。

data 新潟県新潟市中央区柳島町2-10
入館料:大人300円、高校・大学生200円、
小中学生100円(土日祝は無料)※企画展は別途
9:30~18:00(10月~3月は17:00まで)
月曜定休(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日の場合は火曜) Pあり
お問い合わせ先
新潟市歴史博物館 みなとびあ
tel.025-225-6111

1 同敷地内に、昭和2年に建てられた旧第四銀行住吉町支店(国登録有形文化財)を移築・復元。旧新潟税関庁舎、新潟市歴史博物館みなとびあが向かいあうように建っている 2 柳都の雰囲気と堀も再現

1
2





みときょうこうえん

水戸教公園

水戸教とは、水先案内や海難救助をする人たち。長年にわたって新潟港の安全を守ってきたその功績を讃え、西港を見渡せる小山に、市民の憩いの場所として公園が作られた。

[data](#)

新潟県新潟市中央区雲雀町5-7



ことひらじんじゃ

金刀比羅神社

廻船の模型28点が拝殿に収められている神社。当時の船問屋や船主たちが航海の安全を祈願して奉納したもので、国の重要有形民俗文化財。観覧希望の方は事前に連絡を。

[data](#)

新潟県新潟市中央区西厩島2338-1

tel.025-223-3573



みなといなりじんじゃ

湊稲荷神社

高麗犬を廻して願掛けをする「願懸け高麗犬」があることで知られている。昔、花街の女性たちが港から船乗りが出て行かないよう、高麗犬の向きを変え、荒天祈願をしたとされる。

[data](#)

新潟県新潟市中央区稲荷町3482

tel.025-222-6549

港の周辺には、海や船に関する神社や公園が数多く点在。その中から、3つのスポットをピックアップ

明治3年には横浜や神戸がそうであるように、開港場という理由で県庁が置かれる。こうして新潟市は経済だけではなく、政治・行政的にも新潟県を中心となっていく。



新潟市歴史博物館みなとびあ 館長

坂井秀弥さん

Hideya Sakai

考古学者、学術博士、奈良大学名誉教授。新潟県教育委員会、文化庁、奈良大学文化財学科教授を経て、2022年より館長を務める。1955年新潟市沼垂生まれ。

1まるで絵画を見ているような主屋2階からの景色 2砂丘の傾斜を利用して造られた見事な回遊式庭園を散策するのも趣深い

2 1

新潟の経済を牽引した 豪商の館を訪ねて

北前船によって大いに繁栄した新潟港。明治時代に入り、電信や鉄道の発達で北前船の役割が終わろうとする頃、それまでの新潟経済の礎を作り、明治時代以降の新潟の経済を牽引した豪商たち。当時の繁栄を垣間見ることができる屋敷跡などが今も新潟市内には残っている。

「旧齋藤家別邸」

砂丘地形を巧みに利用した 回遊式庭園

明治から昭和初期にかけて、新潟の三大財閥に数えられた豪商、四代・齋藤喜十郎が、大正時代に建てた別荘。砂丘地形を利用し、都会でありながら深山幽谷の趣を仕立て、周辺には見られない滝や沢流れ、池泉といった水辺空間を作り上げた回遊式庭園。庭園と建物を一体とらえる趣向で造られた開放的な建築は、随所にさりげなく銘木、名石を使うなど巧みな演出がなされている。

data 新潟県新潟市中央区西大畑町576
入館料:300円、小中学生100円
9:30~18:00(10月~3月は17:00まで)
月曜定休(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日の場合は火曜)
Pあり
お問い合わせ先
旧齋藤家別邸
tel.025-210-8350

ECONOMIC
DEVELOPMENT
新潟
NIIGATA



新潟町における 町家の典型的な姿

江戸時代後期から活躍した豪商、小澤家の店舗兼住居。こちらは、かつての新潟町における典型的な町家のひとつであり、明治時代に成長した豪商の屋敷構えを構成する一連の施設がほぼそのまま残されている。表通りに沿って続く板塀と、そこからのぞく見越しの松は、みなとまちの風情をどめる景観を形成している。また、各地から庭園材料を集めた豪華な庭園も、豪商の暮らしぶりを今に伝えている。

data 新潟県新潟市中央区
上大川前通12番町2733
入館料:大人200円、
小中学生100円(土日祝は無料)
9:30~17:00
月曜定休(祝日の場合は翌日)、
祝日の翌日(土日の場合は火曜)
Pあり
お問い合わせ先
旧小澤家住宅
tel.025-222-0300

「旧小澤家住宅」

さゆうおざわけじゅうたく

photo_中村 修



photo_中村 修



photo_中村 修



photo_中村 修

- 4 | 1 1 全国から庭園材料を集めて造られた和風庭園 2 一体となっている建物と庭園
2 3 せがれ造り、窓付き雨戸、張り出し二階といった新潟の町家らしい姿を残している 4 当時の活気が伝わってくるような通り土間
3



近代和風建築の特徴が随所に

明治後期に新潟市東堀通7番町に建てられた齋藤喜十郎の邸宅の一部を、平成9年に白山公園内に移築再建したもの。燕喜館の名称は「宴を催し、楽しみ喜ぶ」という意味から齋藤家が命名していたものを引き継いだ。当時の間取りや意匠を活かした前座敷、奥座敷、居室などに加え、露地庭と一体になった本格茶室も設けられた。長さ約18メートルにも及ぶ一本ものの桁や欄間の細工などに風格を感じる。

data 新潟県新潟市中央区一番堀通町一番地2 白山公園内
入館料:無料 9:00~17:00
第1・3曜定休(祝日の場合は翌日)
Pあり
お問い合わせ先 燕喜館 tel.025-224-6081

「燕喜館」

えんきかん

- 3 | 2 1 1 厚い樺の床板の廊下と那智黒石を敷き詰めた土間で構成される土縁。軒を支える約18メートルの杉の桁も見事
2 3つの間からなる40畳の奥座敷。開放的なながらも格調の高い空間となっている
3 土縁から続く庭は、手前に重厚感のある石庭を置き、主庭、白山公園と視界が広がる



「新潟古町芸妓」

にいがたふるまちげいぎ

新潟を代表する伝統文化

質の高い唄や踊り、三味線、鳴り物の芸で新潟古町の名を高めてきた古町芸妓。昭和初期の最盛期には300人以上が活躍したが、社会の移り変わりの中で人数は激減。その伝統が立ち消えようとしていた1987年（昭和62年）、地元有力企業が出資し、全国初の株式会社組織の芸妓養成会社が設立され、今に至る。

data お問い合わせ先 柳都振興 tel.025-222-7080



ふるまちゆうとかふえ

古町柳都カフェ

歴史あるお茶屋の一部をカフェとしてオープン。古町芸妓と気軽に触れ合える。

data 新潟県新潟市古町通9-1462（旧美や古）
古町柳都カフェ 月曜から金曜オープン 13:00～15:00
古町芸妓の舞 鑑賞タイム
毎週土曜日 13:00～（20分程度）1,000円（要予約）
お問い合わせ先
新潟三業協同組合 tel.025-222-2237

日本屈指の芸妓の舞

歴史ある料亭の佇まい

多彩な模様の漆器

日々鍛錬している
踊りや唄は必見

商人や旅人が集まる处には接待する場所も増えるもの。湊町として賑わい、多くの人たちが交流した新潟にも、いつしか花街が生まれていく。風情あふれる料亭が軒を連ね、日本一の米や日本酒、四季折々の新潟の料理が用意され、芸妓たちの見事な唄や踊りが披露された。当時の船乗りの日記の中に、「早く新潟に行きたいなあ」という記述があったという。

古町芸妓について詳しい、旧齋藤家別邸の学芸員で、古町花街の会の事務局長を務める久保有朋さんに伺った。「江戸時代後期の頃には、まだ芸妓と遊女に明確な区別がなく、古町通りのほぼ全域に貸座敷が立ち並び、賑わいをみせていました。明治の中頃から政府の指導によって遊郭統合の動きが始まり、新潟県でも芸妓と遊女の働く場所が分離され、次第に区別がはっきりとしていくんです」。

芸妓は芸があつてこそ。現在、踊りは日本舞踊「市山流」の家元から直接

料亭「行形亭」

いきなりや

江戸時代創業の 新潟最古の料亭

飲食店が多く集まる古町エリアから少し離れた閑静な場所にあり、砂丘を利用した南斜面に広がる2,000坪を超える広大な敷地に、13室の離れ座敷が並んでいる。それぞれ趣の違う建築で、10棟が国登録有形文化財。白壁通り沿いの土蔵には、行形亭のシンボルである鶴がこて絵により描かれている。

data
新潟県新潟市西大畑町573
tel.025-223-1188



ECONOMIC
DEVELOPMENT
新潟
NIIGATA



旧齋藤家別邸学芸員 兼
古町花街の会事務局長

久保有朋さん

Aritomo Kubo

旧齋藤家別邸の学芸員として
働く傍ら、まちづくり組織「古町花
街の会」の事務局長として、
日々、花街の伝統文化の継承、
歴史的町並みの保全活動に取り
組む。花街を全国的かつ分野
横断的に研究する研究会「花
街空間研究会」にも参加

指導を受けている。家元が地方都市に
お住まいなのは全国でも珍しいこと。
唄や三味線、鼓などは東京音楽大学よ
り講師を招いている。お師匠さんや講
師、先輩のお姐さん等に支えられなが
ら日々芸を磨いているのだ。その甲斐
あって、全国でもレベルが高いと評判
だ。「芸妓たちの唄や踊りは、お座敷
ではもちろんですが、いろんなイベン
トに引っ張りだこなので、一年中見る
機会は多いんです。中でも毎年9月に
行われる新潟古町芸妓総出演の『ふる
まち新潟をどり』は彼女たちの晴れ舞
台、必見です」と久保さん。

古町には今も戦前の歴史的建造物や
町並みが多く残っている。花街が賑や
かだった頃を想いながら古町を散策し
てみると、ひよっとしたら芸妓たちに
会えるかもしれない。



たくさんの漆塗りの技術も
伝えられた

はじめは約400年前の江戸初期。主
に座卓やお膳、お盆などの日用品を中
心につくられていた。江戸末期には江戸
や大坂、北海道と販路を拡大し、日本有
数の漆器産地となる。多彩な模様の変
塗（かわりぬり）の宝庫と呼ばれ、数多く
の漆塗り技法が受け継がれている。

data

お問い合わせ先
新潟漆器製造
tel.0256-77-5450

にいがたしき
「新潟漆器」

